

○蓑原美奈恵，矢倉 紀子

(鳥取大学医療技術短期大学部・看護学科)

【 目的 】 肝硬変をはじめとする慢性肝疾患に対する治療は，安静と食事およびビタミンなど薬剤による肝底護療法であり，食事や日常生活指導など看護の果たすべき役割は大きい。

今回，各種肝疾患々者の味覚識別能を調査し，食生活を中心とした患者指導に役立てるため検討したので報告する。

【 対象と方法 】 対象は，慢性非活動性肝炎（C I H）13例，慢性活動性肝炎（C A H）21例，肝硬変（L C）43例，肝硬変合併肝細胞癌（H C C）11例の肝疾患々者88例（男性52例，女性36例，平均年齢 54.8 ± 14.2 歳）である。味覚識別能は性，年齢，喫煙量に影響されるので，患者1例に対しこれら3因子が一致し，肝機能が正常の1例を対照として選出した。

味覚検査は滴下法で行ない，甘味，塩味，酸味，苦味の4味質につき各々10段階濃度に調整した味質液を用いた（表1）。滴下法による味覚検査は，蒸留水で含そう後，一種類の味質液1滴（約0.05ml）を舌の中央に滴下し，「甘い」「塩からい」「酸っぱい」「苦い」「無味」「何かわからない味がする」の中から一つを指示させる方法である。味質液は濃度の薄い1から段階的に上げ，識別できる最低濃度段階を被験者の味覚識別能検査値とし，検査値が高値なものほど味覚識別能が鈍感であることを示す。

同時に，肝機能検査とともに血清中のビタミンAや亜鉛濃度を測定し，喫煙，飲酒，食習慣などについては聞き取り確認した。

【 結果 】 肝疾患々者88例において味覚の低下を自覚するものはみられなかったが，対照とした健常人に比べ肝疾患々者の味覚識別能は鈍化していた。今回測定した4味質のうち，甘味（ $p < 0.001$ ）で最も鈍化し，ついで酸味（ $p < 0.01$ ），塩味（ $p < 0.01$ ）であったが，苦味は健常人と有意差を認めなかった（図1）。

甘味について疾患別にみると，味覚識別能検査平均値はC I H，C A H，L C，H C Cの順に高値を示し，肝病変の進行とともに鈍化していることを示した。しかし，C I Hは健常人と差がなく，C A H（ $p < 0.01$ ），L C（ $p < 0.001$ ），H C C（ $p < 0.01$ ）ではいずれも有意に鈍化していた（図2）。また，塩味，酸味も甘味と同様の傾向を示したが，苦味は差がなかった。

今回の結果には示さなかったが，L C患者を肝機能検査値や全身状態を指標としたChild分類で区分し甘味を比較してみると，重症のC群は，軽症のA群やB群のいずれに対しても有意に鈍化していた。また，L Cの原因をアルコールと非アルコールで比較してみるとアルコール性の甘味は有意に鈍化していた。

慢性肝疾患々者の味覚異常は血清ビタミンA欠乏とは必ずしも一致せず，亜鉛濃度と弱い相関（ $p < 0.05$ ）が見られた。また，味覚識別能と各種肝機能検査所見とは一定の関係を認めなかった。

【 考察 】 今回の対象者は、これまでに医師や栄養士などから何らかの指導を受け、禁煙・禁酒を心掛け食生活もある程度気を付けている。しかし、対照として性、年齢のみならず喫煙量を一致させて検討した結果、慢性肝疾患々者の味覚識別能は甘味で最も差が見られ、ついで酸味、塩味が鈍化していたが、苦味では差がなかった。疾患別に検討するとC I Hでは健常人と差がなかったが、C A H、L C、H C Cで鈍化していた。さらにL CのうちChild C群で著しい味覚の鈍化が見られた。

今回の成績から、慢性肝疾患での味覚異常は単に血中のビタミンAや亜鉛を反映するものではなく、栄養状態など疾患の病態を反映した結果として、味覚異常を認めたと考えられる。

味覚に対する反応は、単に生理学的な意味での味覚異常のみならず、嗜好や食事内容など心理的な反応が複雑にからんでいるが、肝疾患で見られる腹水貯溜患者に塩分制限を行なう際には、味覚が鈍化していることを十分に理解したうえで食事指導を行なう必要がある。今後、さらに検討を加え、腹水などが問題となるL CやH C C患者の食事指導、生活指導に役立てていきたい。

表1 味覚検査に用いた味質液別濃度

(単位: %、g/g)

	濃度段階									
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
甘味 (精製白糖)	0.15	0.3	1.4	2.5	6.25	10	15	20	50	80
塩味 (塩化ナトリウム)	0.15	0.3	0.775	1.25	3.23	5	7.5	10	15	20
酸味 (酒石酸)	0.01	0.02	0.11	0.2	1.1	2	3	4	6	8
苦味 (塩酸キニーネ)	0.0005	0.001	0.01	0.02	0.06	0.1	0.3	0.5	2.3	4

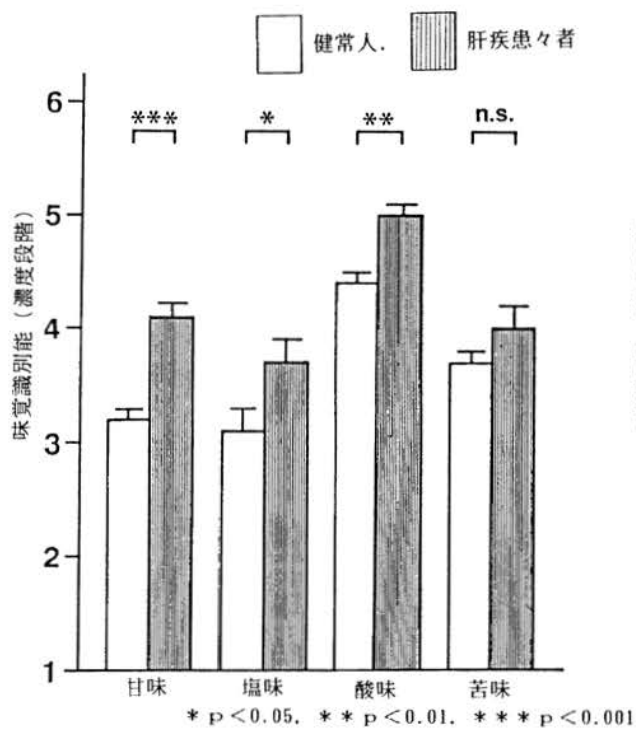


図1 慢性肝疾患々者における味覚識別能 (mean ± SEM)

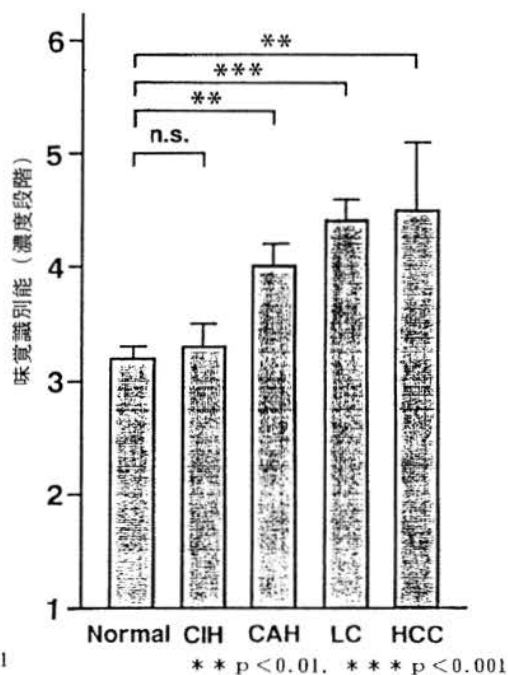


図2 疾患別、甘味の味覚識別能 (mean ± SEM)